

## みなかみ町における大型菌類の調査

伊藤智史<sup>1)</sup>、松本哲夫<sup>2)</sup>、齊藤みづほ<sup>2)</sup>、國友幸夫<sup>2)</sup>、坂田春生<sup>2)</sup>、北爪二郎<sup>1)</sup>

1) 群馬県立自然史博物館 2) 群馬県林業試験場

### 1. はじめに

みなかみ町は群馬県の北部に位置し、急峻な山々が連なる寒冷な地域である。群馬県立自然史博物館では、平成 29 年度から 33 年度までの 5 か年で、みなかみ町に自生する大型菌類を調査する。大型菌類とは、肉眼的な大きさの子実体を形成する菌類、きのこ総称される担子菌類や子囊菌類の一部を指す(日本菌学会,2013)。この 5 か年で、みなかみ町に自生する大型菌類の基礎的情報収集を行い、季節ごとの発生の違いを調査していく。

### 2. 調査場所

当館のみなかみ町における菌類の調査・収蔵資料は少ない。そこで、1カ所を定点的に調査するのではなく、さまざまな場所で調査を行うこととした。選定した場所は、当館で過去に採集記録のある場所から選定した。

### 3. 調査方法

調査においては、大型菌類を採集する前に写真撮影を行い、採集環境、基質などの状況を記録した。採集した大型菌類は現地で色や形、味、臭い、変色性などの特徴を記録し、種の同定を行った。孢子観察等の顕微鏡的観察が必要な種については博物館において検鏡を行った。同定作業後は、送風乾燥法及び真空凍結乾燥法により証拠標本を作製し、収蔵した(金井英男,2011)。なお、採集、および、同定作業には、群馬県林業試験場の方々の協力を仰いだ。

### 4. 調査結果

平成 29 年度の調査では、担子菌類 268 点(30 科 160 種)、子囊菌類 22 点(7 科 19 種)、合計 290 点(37 科、179 種)を確認し収蔵した。採集数が多かったのは、担子菌類では、キシメジ科が 70 点(40 種)、ベニタケ科が 57 点(34 種)で、キシメジ科が全体の 26%、ベニタケ科が全体の 21%を占めていた。子囊菌類では、クロサイワイタケ科とズキンタケ科がそれぞれ 6 点(5 種)で、全体のそれぞれ 27%を占めていた。

表 1 平成 29 年度における調査実施日と採集した主な菌類

調査日	調査場所	主な菌類
6月20日	裏見の滝周辺 (みなかみ町藤原)	アシナガタケ、フデタケ、キララタケ、カワラタケ 他 19点(11科19種)
7月19日	宝台樹キャンプ場 (みなかみ町藤原)	アマタケ、カイメンタケ、カバイロツルタケ、ツチクラゲ 他 20点(10科17種)
8月17日	日本大学生物資源科学部水上演習林 (みなかみ町夜後)	クリイロイグチ、サマツモドキ、タマゴタケ、チチタケ 他 67点(19科53種)
9月12日	奥利根水源の森キャンプ場周辺 (みなかみ町藤原)	ツキヨタケ、ドクツルタケ、ドクベニタケ、マメザヤタケ 他 80点(13科63種)
10月12日	奥利根水源の森田代湿原登山道 (みなかみ町藤原)	ブナハリタケ、タヌキノチャブクロ、ニガクリタケ 他 61点(15科39種)
11月1日	大峰山登山道 (みなかみ町小川)	ムキタケ、キヌメリガサ、クリタケ、ナメコ、ビョウタケ 他 48点(14科28種)

【引用文献】 日本菌学会(2013):大形菌類.菌類の辞典.朝倉書店,p299

金井英男(2011):大型菌類.群馬県立自然史博物館自然史調査報告書,(5):72-73

キーワード: みなかみ町、大型菌類、担子菌類、子囊菌類